

お礼状

神奈川県 社会連携部 本学の架け橋プロジェクト 御中

この度は「世界の笑顔のためにプログラム」を通じて絵本と図鑑をご寄贈いただき、誠にありがとうございます。

私はJICAの青年海外協力隊として2023年2月からザンビアで活動している中野と申します。首都ルサカのジョージコンパウンド（コンパウンド：低所得者居住区）にある「ナカララ・コミュニティスクール」（コミュニティスクール：公立の学校が足りないため、地域住民が自主運営する学校）に配属され、学校運営費の調達および授業の質の改善に取り組んでおります。

今回ご寄贈いただいた絵本と図鑑は、私の配属先であるナカララ・コミュニティスクールで大切に活用させていただきます。現在、ナカララ・コミュニティスクールには教科書や教材がほぼありません。子ども達は先生の板書でしか文字を目にする機会がなく、文字の読み書きが苦手な子ども達が多くいます。まずは簡単な絵本から文字に触れる機会を作り、文字を読む楽しさを知り、文字の読み書きの上達に繋げていきたいと考えています。また、例えば理科の授業で植物について学ぶ時、先生が黒板に書いた簡易的な手書きイラストをみることしかなく、実物の模型や写真を見る機会はありません。そこで写真付き図鑑を通じて視覚的に学ぶことで、理解を深めたいと考えています。ご寄贈いただいた物品で授業の質の改善に現地の先生と取り組んでいきたいと思っております。

下記を同封いたしますので、お時間ある時にぜひご覧ください。

- ・ ザンビアの紹介①、②
- ・ 学校の紹介①、②
- ・ ご寄贈品を使っている様子
- ・ 校長先生からのお礼状（英語、日本語）
- ・ 子ども達からのサンクスレター

青年海外協力隊 青少年活動



ザ

ン

ビ

ア

の紹介 ①

基礎情報

国名 ザンビア共和国

↳ アフリカで4番目に長いザンベジ川が由来

面積 約75万km²

↳ 日本の約2倍

人口 約2,001万人 (2022年)

↳ 日本の約1/6倍

言語 英語 (公用語)、ニャンジャ語、ベンバ語等

↳ 73の部族が存在し、それぞれ独自の言語を持っています

日本との時差 -7時間

↳ 日本 4月1日 18:00 → ザンビア 4月1日 11:00



国旗

緑 ザンビアの大自然

赤 独立のために流された国民の血

黒 大多数が黒人のザンビア国民

オレンジ 銅等の豊かな鉱物資源

鳥 国鳥の鷲フィッシュ・イーグル/困難に負けずに突き進む国民の力と自由



歴史

1964年 イギリスから独立

↳ 第1回東京オリンピックの開催期間中(10月24日)に独立を達成したため、開会式と閉会式の時の国旗が違ったという珍しいことがありました。

ザ

ン

ビ

ア

の紹介 ②

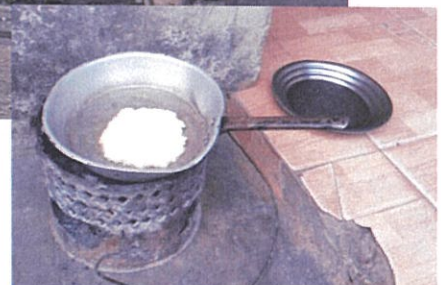
首都の中心地の様子

大きなショッピングモールがいくつもあり、道路もきちんと舗装されています。電気や水道、インターネットも使えます。



学校近くの様子

一方、ナカララ・コミュニティスクール(コミュニティスクール：公立の学校が足りないため、地域住民が自主運営する学校)があるコンパウンド(低所得者居住区)は中心地から少し離れた場所にあり、道路は舗装されておらず、あちこちにゴミや汚水が散乱し、不衛生な環境下での生活を強いられている人々もいます。電気や水道もあまりなく、料理は家の外でブラジア(木炭を使うコンロ)を使って行います。

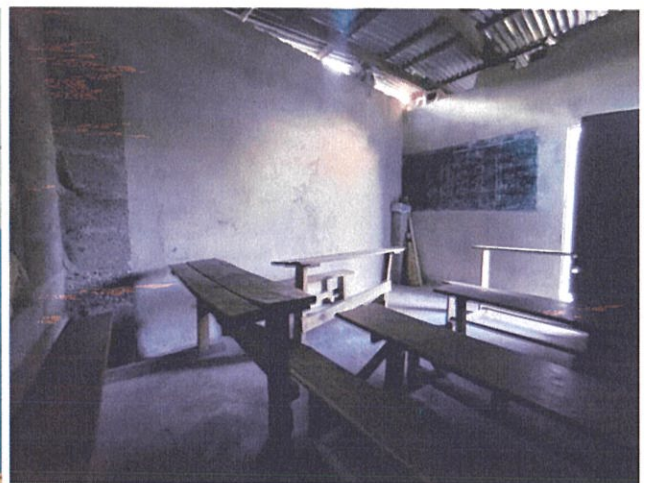


学 校

の 紹 介 ①

校舎と教室

狭い校庭と教室が2つあるだけの小さな学校です。電気がないためドアから入る太陽の光をたよりに、子ども達は授業を受けます。机とイスは、日本のように1人1つではなく、机とイスが固定された二人掛け用のものに2～4人がつめて座ります。



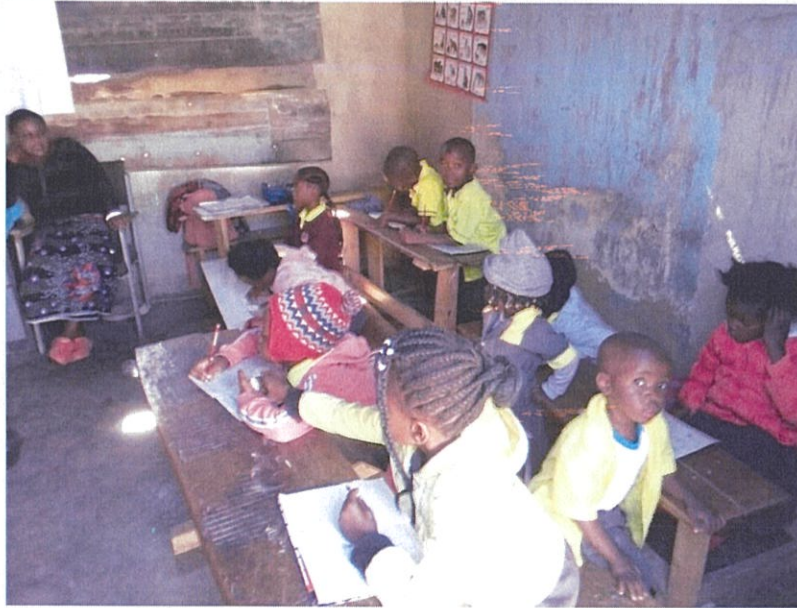
学校の先生

ナカララ・コミュニティスクールは、幼稚園が併設された小学校となっており、1～9歳（小学2年生）までの生徒が約60名在籍しています。先生が2人しかいないため、幼稚園クラスと小学1・2年生合同クラスの2クラスに分かれて授業が行われます。写真の女性2名が先生で、男性が校長先生です。



授業の様子

子ども達は文字の読み書きが苦手ですが、毎日がんばって黒板に書かれたことをノートに取っています。



休み時間とランチタイム

10:00～10:30の休み時間は「ブレイクタイム」と呼ばれ、おやつを食べる時間になっています。子ども達は家から持ってきたおやつ(チップスやクッキー等)をかばんの上に出し、シェアしながら食べます。13:00～14:00のランチタイムは、給食がないため、家から持ってきたお弁当(パスタやトマトライス等)を食べます。

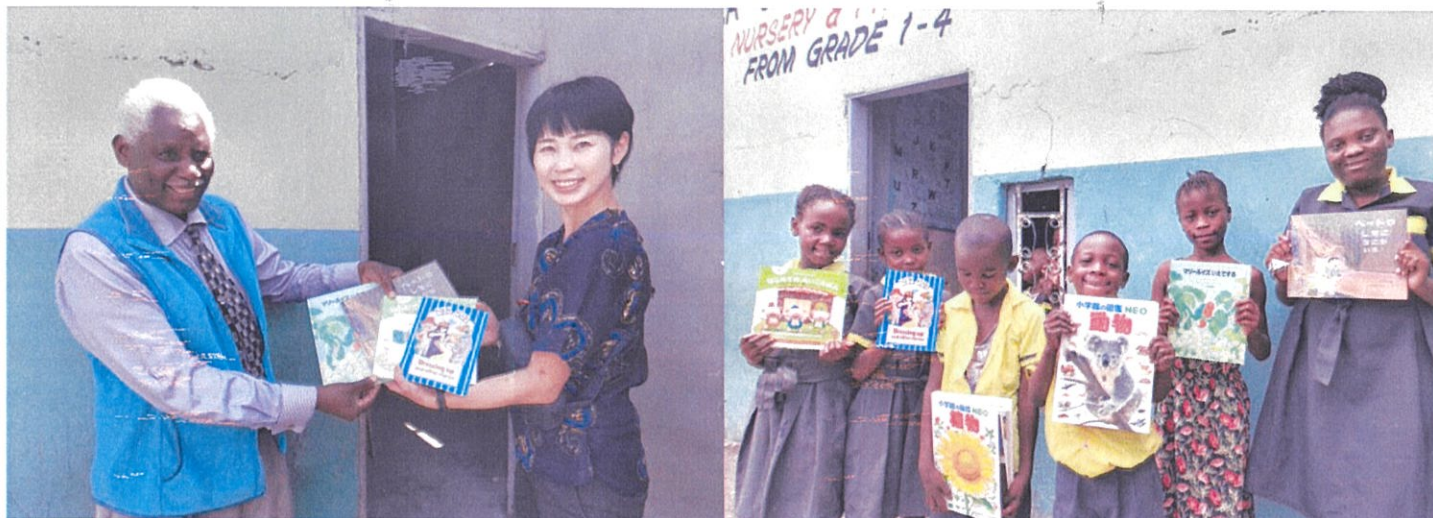


ご

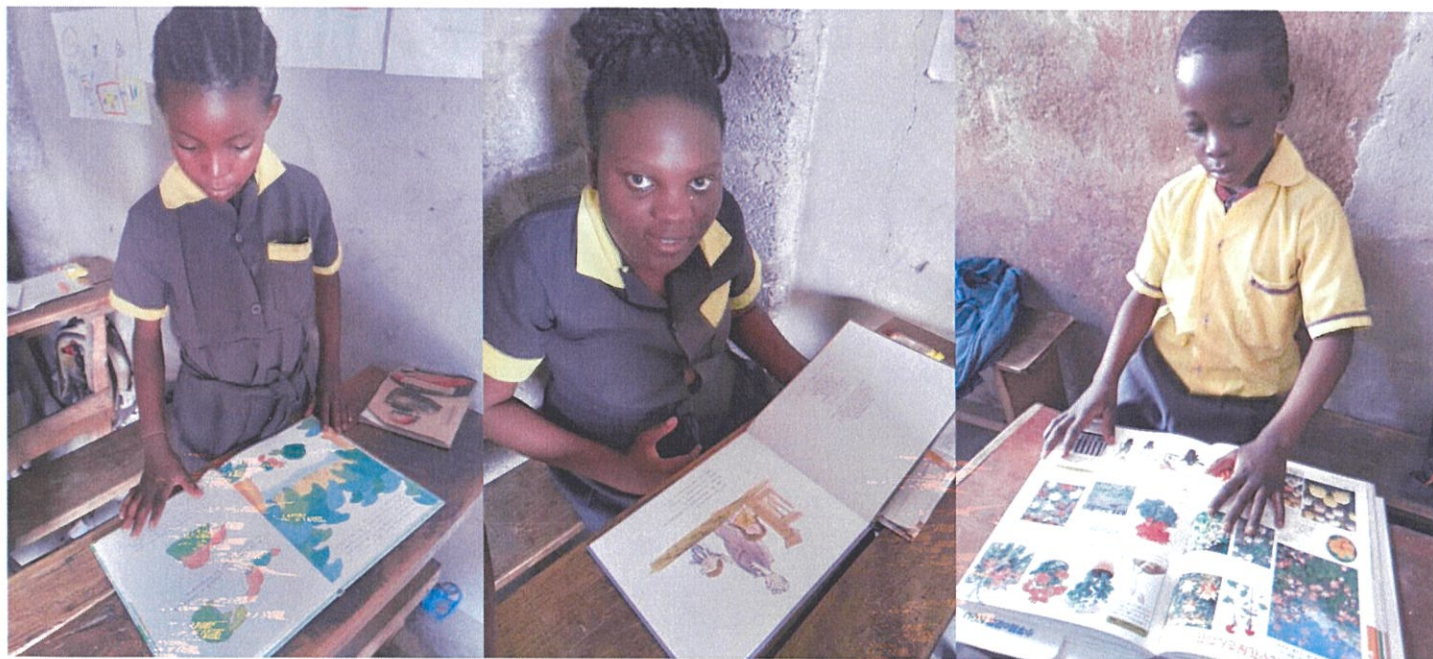
寄

贈

品

を使っている
様子

校長先生に手渡しで寄贈した後、子ども達に実際に使ってもらいました。



休み時間に好きな本を選んでもらい、1冊ずつ子ども達に貸出しました。まだ文字は読めないのですが（これから隊員が日本語を英語に翻訳する予定）、絵からストーリーを想像したり、見たことのない植物を見たりして、とても楽しそうな様子でした。先生方も図鑑にはとても興味深々で、「これは英語で何て言うの？」とたくさん質問をしてくれました。

※複数名の方に物品をご寄贈頂いたため、
他の方からのご寄贈品も一部いっしょに写っております。



NAKALALA NURSERY AND PRIMARY SCHOOL

George Compound, Lusaka

31th October, 2023

Dearest Book Bridge Project at Kanagawa University Center for Cooperation with Society,

RE: Donation to our school by you good people.

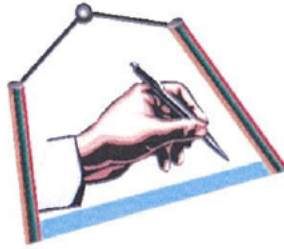
We are NAKALALA Community School in George Compound, Lusaka, Zambia and we assist the poor and vulnerable in our community through education.

I am writing to express my thanks for your assistance for donating picture books and a visual dictionary of plants. On behalf of the school, we would like to thank you more for the good work you have done to the learners and our community, this big donation has brought happiness to us all and we feel you are part of the school and you will remain so. Once more thanks a lot for your support and job well done, and God bless you more and more.

Your faithfully,
Nakalala Community School

A handwritten signature in blue ink, appearing to read 'Hammer', written in a cursive style.


School Director



NAKALALA NURSERY AND PRIMARY SCHOOL

George Compound, Lusaka

2023年10月31日

神奈川大学 社会連携部 本の架け橋プロジェクト 御中

私たちの学校にご寄付いただいた物品について

はじめまして。私たちは、ザンビアの首都ルサカにあるジョージコンパウンド（コンパウンド：低所得者居住区）に建てられた「ナカララコミュニティスクール」にて、教育を通じてコミュニティの貧しい人々や弱い立場にある人々を支援しています。

ご寄付いただいた絵本と植物図鑑について感謝の意を伝えたいと思い、この手紙を書いています。学校を代表して、生徒達とコミュニティのために行った素晴らしい取り組みに感謝したいと思います。この多大なご支援は、私たち全員に幸せをもたらしてくれました。私たちはこれからも皆さんがナカララコミュニティスクールの一員であると感じています。皆さんのサポートと素晴らしい取り組みに心から感謝します。そして、神の祝福が益々ありますように。

敬具

ナカララコミュニティスクール

学校長

（日本語訳： ）

Dear Book Bridge Project, KANAGAWA University



FROM NAKALALA School, ZAMBIA